

2017年7月
1124号

万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

激動する世界情勢と日本の未来 ～尾崎行雄記念財団設立60周年 号堂記念シンポジウム～

7月22日、憲政記念館会議室に於いて尾崎行雄記念財団設立60周年号堂記念シンポジウムが開催されました。テーマは「激動する世界情勢と日本の未来 我が国の安全保障・国際貢献のこれから」です。

パネリストは小川和久氏（軍事アナリスト）伊勢崎堅治氏（東京外国語大学教授）伊藤祐靖氏（元海上自衛官）、コーディネーターに桜林美佐氏（防衛ジャーナリスト）と、第一線で活躍されている方々です。

会の冒頭一冊の会石田理事長が、尾崎記念財団理事・事務局長として挨拶をされ、その中で、一冊の会と尾崎記念財団は共に歩んでいること、先日長沢宏明復興副大臣から頂いた福島復興支援のポスターを紹介させていただきました。



尾崎行雄記念財団設立60周年 号堂記念シンポジウム

激動する世界情勢と日本の未来

我が国の安全保障・国際貢献のこれから

平成29年7月22日(土)午後2時～5時 (於・憲政記念館/永田町 1-1-1)

 パネリスト 小川和久氏 静岡県立大学特任教授	 パネリスト 伊勢崎堅治氏 東京外国語大学教授	 パネリスト 伊藤祐靖氏 元海上自衛官	 コーディネーター 桜林美佐氏 防衛問題研究家
----------------------------------	----------------------------------	------------------------------	----------------------------------

激論は安全保障問題を中心に、休憩をはさみ3時間続き大変白熱したものとなりました。聴講者も老若男女様々な人が詰めかけておりました。一冊の会からも大勢参加しましたので、事務所に寄せられた感想を抜粋して掲載いたします。

- ・日米同盟は大変強力で死活的に重要なものであることなど、知らないことが多い事に気付かされました。各国はそれぞれ備えを進めているのに対して、日本の国は大丈夫なのかと心配になりました。石田理事長が冒頭お話されたように私達一人ひとりがもっと真剣に考え、発信していかねばならないと思います。(箱根)
- ・政治家を選ぶ我々が、一票の重さを理解し投票する意義を感じました。投票して終わりではなく、どうしたら日本が良くなるかを考え、意見を出し合っていくのが民主主義だと思います。(瀧川)
- ・重い課題だからこそ相互が継続して力強く努力を重ねなくてはならないのだと思いました(富永)
- ・平和を愛する女性だからこそ、真剣に学んでいかなければいけないと感じました(新井)
- ・相馬先生は常々凛として「世界の平和を」と仰っていらっしゃいました。私も微力ながら日本の平和、世界の平和を祈って一冊の会の活動に参画してゆきたいと決意を新たにしました。(北川)
- ・勇気が沸きました、ありがとうございます。(鎌田・水上)
- ・コーディネーターの桜林さんが見事に3人のパネリストのお話を深く引き出されておりました(石井)
- ・沖縄戦で父を亡くしているから強く戦争は絶対はいやだ。世界が平和でありますように。(岸田)
- ・一冊の会の活動と繋がり、今後も一層精進します(椎名)
- ・平和構築なくして日本の国益はないという小川氏の言葉に、心からそう思います。一冊の会の友好の輪を広げてきた歴史を引き継いでいかななくてはと強く感じました。(赤田)



終了後にパネリストの小川氏を囲んで。

文責・編集：赤田研究員補